

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-056	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Relationship between drinking patterns and the risk of type 2 diabetes: the Kansai Healthcare Study. 飲酒パターンと2型糖尿病との関係		
<b>執筆者</b>		
Sato KK, Hayashi T, Harita N, Koh H, Maeda I, Endo G, Nakamura Y, Kambe H, Kiyotaki C.		
<b>掲載誌</b>		
J Epidemiol Community Health. 2012 Jun;66(6):507-11.		
<b>キーワード</b>		
飲酒パターン、2型糖尿病のリスク、関西ヘルスケアスタディ		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>中等量の飲酒は、2型糖尿病のリスクを低下させることに関連しているということは知られている。しかしながら、週の飲酒頻度と飲酒時の飲酒量を組み合わせた飲酒パターンと2型糖尿病の発症との関係は十分に解明されていない。そこで、本研究は、その点を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>研究の参加者は、登録時に2型糖尿病を有していない40～55歳10,631人の日本人男性。参加者が空腹時血糖7.0mmol/l以上になった場合、または、糖尿病の薬を開始した場合は、2型糖尿病と診断した。飲酒のデータは、自己記入式の質問表から情報を得た。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>37,172人年の追跡期間(平均追跡期間3年)を通して、878人の2型糖尿病の発症を確認した。頻回の飲酒は、2型糖尿病の低いリスクと関連していた。非飲酒者と比べて週に4～7回の飲酒者は、多重調整ハザード比0.76であった。次に非飲酒パターンと2型糖尿病の関係を評価するために、2型糖尿病を発症した人の1週間における飲酒回数と飲酒時の飲酒量の総合的な関係を調べた。結果は、週のうち4～7日にアメリカ基準飲酒単位(アルコール14g相当)で0.1～2.0単位または2.1～4.0単位を消費している男性は、2型糖尿病の発症リスクは低かった。そのリスクは、非飲酒者と比べて0.1～2.0単位の飲酒者はHR 0.74(95%信頼区間は0.58～0.95)、2.1～4.0単位の飲酒者でHR 0.74(0.60～0.91)であった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>より多くの回数の飲酒は、2型糖尿病の発症リスクを低下させた。非飲酒者と比べると、少量から中等量の飲酒者で1週間のうち4～7回の飲酒する者は、2型糖尿病の発症リスクが低かった。</p>		